

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE

San-ikukai
Charity Concert
2022



REPORT

Vol. **34**
2022 WINTER

賛育会チャリティーコンサート2022レポート
3年ぶりにコンサートを開催！

賛育会病院：賛育会病院建替えの第一歩

賛育会 新評議員ごあいさつ ～就任から1年を振り返って～





湊恵子さん彩花さんオルガン連弾



松本和将さんピアノソロ



主演者のみなさんへ花束贈呈



木村 庸五さん
ご挨拶



大谷康子さんヴァイオリンソロ



多くの来場者の会場

特集
REPORT

賛育会チャリティーコンサート2022レポート 3年ぶりにコンサートを開催！



竹佐古 真希さん

10月19日、賛育会チャリティーコンサートを開催しました。賛育会評議員で
実行委員も務められた、オルガニストの竹佐古さんにレポートしていただきました。

昨年より賛育会評議員を務めておりますオルガニストの竹佐古真希と申します。コンサート実行委員も務めさせていただきました。

■3年ぶりに開催されたチャリティーコンサート

10月19日、3年ぶりに賛育会チャリティーコンサートが開催されました。ほぼ満席のホールで、湊恵子さんと娘さんの彩花さんによるパイプオルガンのソロと連弾、松本和将さんのピアノソロ、大谷康子さんによるヴァイオリンソロの3部構成は、わたしたち聴衆を一気に日常から音楽の世界へと誘っていただきました。

ホール真正面で威容を誇るオルガンは、時にやわらかく時にエネルギーの塊のごとく鳴り響き、ピアノ独奏はppp(ピアノッシモ)からfff(フォルティッシモ)まで自由自在に鍵盤をあやつる松本和将さん、後半の大谷康子さんのヴァイオリンソロは、特にウクライナ出身スコリック「メロディ」の無伴奏でウクライナとのつながりも深く現地で演奏会に出演なさったお話も伺いながら、1日も早く戦火が止みますことを願う祈りに溢れていました。

この数年間はコンサートへ足を運ぶこと自体控えておられた方も多かったことでしょう。わたし自身も生の演奏の迫力と圧倒的な情熱、ホール全体の熱気を身体に染み込ませながら存分に堪能いたしました。今年はプログラムノート原稿の執筆も担当しましたので、1曲毎に追体験してより深く味わいながらの鑑賞でした。

■無事に開催となったコンサート会場にて

評議員会や実行委員会は、コロナ禍故に長らくオンラインのみでしたので、コンサート当日はぜひ皆さんにお会いしたい気持ちが強く、夜は非常勤の仕事で青森への移動日でしたが、少々無理をしてトリフォニーホールへ参集しました。実行委員会の会議では演奏会の開催可否も危ぶまれましたが、初のオンラインチケット販売も取り入れつつ無事に開催され、開場前の立ち話や打ち合わせでさえも皆さんの顔がほころび、喜びに満ちていました。

■賛育会とわたしについて

わたしは学生時代から学生YMCAや日本YMCA同盟とのつながりが深く、賛育会理事の島田茂さんを通じて推薦いただき、評議員に選任されました。私事になりますが、連れ合いは30数年前に賛育会評議員の酒井薫牧師よりT協会を脱会させていただき、受洗後の現在は牧師を務め、脱会後は長らく破壊的カルト被害に遭われた方の救出活動もしています。酒井牧師はコンサート当日も脱会へ向けて準備中のご家族を招かれて細やかにフォローなさっておられました。

また賛育会病院高本眞一院長と義母の友人がお知り合いであることも知り、YMCAの友人や知人たちのお顔も大勢拝見した嬉しい一夜でした。ほかにもYMCAや教会関係でつながりのある方もいらっしゃると思います。今後とも宜しく願い申し上げます。

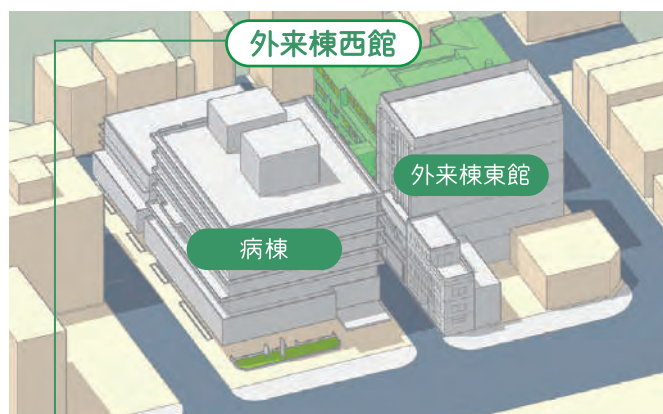
賛育会病院建て替えの第一歩

外来棟西館の解体計画をまとめます

賛育会病院の建て替えの第一歩として、最も古い外来棟西館の解体に向けた計画を作成中です。昨今、各地で発生している地震や水害など、自然災害の脅威が増している中、築92年を過ぎた外来棟西館は解体が必要です。準備工事を含め、2023年度内の着工を目指しています。計画がまとまり次第、地域の方々への説明から開始する予定です。

賛育会発祥の地である墨田の地で、地域のための医療・福祉の働きをさらに強めていけるよう、将来構想についても検討を重ねています。HPや広報誌等を通して皆様への情報発信にも努めてまいります。

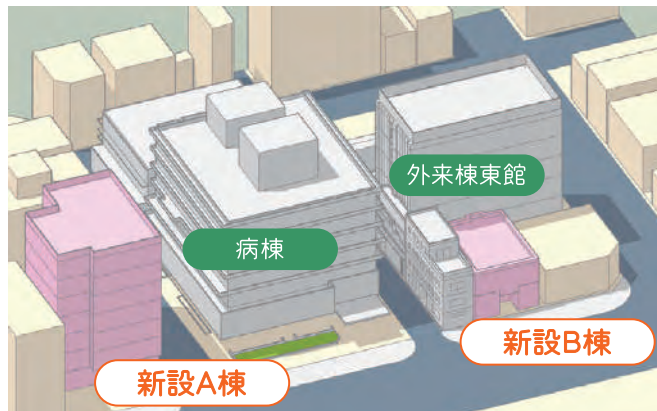
■2022年現在



- 築92年を過ぎた外来棟西館の解体計画を作成しています。2023年度内の着工を目指しています。



■工事後イメージ図（予定）



戦後の外来病棟西館の風景
1948年(昭和23年)



賛育会 新評議員ごあいさつ

～就任から1年を振り返って～

賛育会評議員：坂根 慶子さん

昨年6月から評議員になった坂根慶子と申します。中年過ぎから墨田区に住むようになり、一人の友人・知人もいない所でやっていけるか不安もありましたが、国内外の大学等と言語教育に携わっていた経験から新しい環境に適應するのは難しくなかったです。仕事をしながら自治体等での地域活動、ボランティアを始め、多くの素敵な友人ができました。具体的には10年ほど前から賛育会病院の緩和ケア病棟でボランティアを始め、さらに墨田区の教育委員を2期8年務めたことで友人・知人の輪が広がりました。

実行委員も務めたこの秋の病院建て替えのためのチャリティーコンサートでは多くの方がチケット購入・寄付をしてくださったことに改めてお礼申し上げます。



賛育会評議員：坂野 修一さん

昨年、前評議員の中山勝子先生よりご推薦を受け賛育会の評議員に選任されました特定非営利活動法人町田フレンズサポート事務局長の坂野でございます。

1年を振り返り、評議員として評議員会、苦情対応委員会などに参加させていただき、賛育会の様々な取り組みを知り、また私が住む玉川学園の急階段をデイサービスでご利用者に付き添われ送迎する姿を日々拝見し、清風園の職員の皆様のご苦労を見るにつけ、同じ福祉に働く者として頭の下がる思いです。具体的な改善提案などまだできておりませんが、コロナ禍の中でも明るく一生懸命に働く職員の皆さんが生き生きと働けるよう、微力ながらお手伝いしたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。





クリスマスの メッセージ



賛育会は地域の教会の祈りと奉仕にも支えられています。日本キリスト教団 長野教会は豊野事業所を通して賛育会を支えてくださっています。同教会の横井伸夫牧師にクリスマスのメッセージをいただきました。

初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

ルカによる福音書2章7節

★「飼い葉桶の幼子」～賛育会の原動力～

クリスマスは、この世に真実の光が到来した時です。私たちの周りは「闇」に包まれているように思います。災害や疫病が世界全体を悩ましています。そして私たちの心にも「闇」があります。その「闇」が、私たちの心を不安にさせ、隣人を拒絶し、争いや憎しみを起こし、貧困や飢餓、戦争を起こします。

神の御子キリストは、家畜小屋の飼い葉桶の中でお生まれになりました。宿屋に泊まる余地がなかったのです。人々は自分たちの泊まる場所、居場所を求め、その結果神の御子が居場所を失い、家畜小屋で泊まり、牛や馬の餌台である飼い葉桶に寝かされました。しかし、そこに神様のご意志がありました。神様の御子はこの世で拒絶された人、弱い存在の人と共に生きる者としてお生まれになりました。そしてこの方の生涯の最後は十字架の死でした。キリストは生まれる時も拒絶され、死ぬ時も拒絶された

日本キリスト教団 長野教会 牧師 横井伸夫

方でした。この方は、私たちの苦しみや悩みを担うために、この世に来られました。飼い葉桶の中で生まれた幼子に神様の深い愛が現われる。神様はこの飼い葉桶の幼子によって、私たちのすべてを肯定してくださいました。最初のクリスマスの晩、天使は野宿する羊飼いに「恐れるな。」と語り、救い主キリストの誕生を「大いなる喜び」として伝えました。この世の闇がいかに深くとも、私たちの人生が暗闇の中のものであっても、このクリスマスの光を消すことはできません。神の愛を受けた喜びを失わせることはできません。このクリスマスの喜びこそ、賛育会の諸事業の原動力です。飼い葉桶の幼子を仰ぐところから、私たちの愛の業も始まるのです。



INFORMATION

施設通信

たちばなホーム
(東京都墨田区)

たちばなホーム 敬老祭とたちばな作品展

たちばなホームでは、9月に「敬老祭」、11月に「たちばな作品展」を行いました。「敬老祭」の式典は、フロアごとに全員が参加され、賞状を受けとった方は感激で胸を熱くしていた様子に感じました。昼食のお祝い膳では、ご利用者のリクエストの「メロン」や、おやつ「紅白饅頭」もお膳に載り、見た目も内容も豪華で皆さんとても美味しく召し上がっていました。「たちばな作品展」では、さんいっくハイツ東あずまや地域住民折り紙サークル、中学校生徒や幼稚園児の作品、ホームのご利用者の作品を展示。月々のクラブ作品と共に、ご利用者が無理なく行える作業を積み重ねて制作した模造紙1枚の大きな共同作品を各階で作成し、展示しました。オンライン面会等でいらしたご家族やご利用者も時間をずらしながら見ていただくことができました。コロナ禍で今年も小規模になりましたが、それぞれが鑑賞し、芸術の秋にふさわしい作品展になったと思います。

(たちばなホーム介護主任 朝田模子)



敬老祭



たちばな作品展

賛育会特別募金のお願い

賛育会の各施設では「いのちの授業」や「子ども食堂」をはじめ、高齢者や子どもの居場所づくり、被災地支援など60を超える地域支援活動を行っています。

これらの活動は多くの皆様からのご寄付によって支えられています。

災害や感染症の影響下での病院や施設の運営は、大きな困難に直面しています。活動や交流が制限される状況でも、人々とつながることを願い、あらゆる手段を用いて、賛育会は人と地域に寄り添い続けます。皆様の温かいご支援をお願いいたします。

- 募金は現金、または郵便振替でお願いいたします。
- お申し出により、募金者のお名前や募金額を非公開にすることも可能です。



San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいっくつうしん」

San-iku通信 Vol.34 2022年 冬号

編集：賛育会法人事務局

発行人：中村 基信

発行所：社会福祉法人 賛育会

印刷：(有)エースプリント (20221214-7000)

社会福祉法人 賛育会

〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8

URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ

TEL:03-3622-7614



社会福祉法人
賛育会